

中国語との対照の観点から見た日本語複合動詞の習得
- 完了を表す類義語「～切る」「～抜く」「～通す」を例にして-
許^{キョリ}臨^{リン}揚^{ヨウ} (名古屋大学大学院)

本研究は、中国語との対照の観点から、文法化を起こした日本語の複合動詞の習得はどこが困難であるか、なぜ困難となるかを研究するものである。(1a)では、複合動詞「読み通す」は中国語の<读完>(du-wan)と対応している。しかし、(2b)が示すように、<读完>(du-wan)は複合動詞「読み切る」にも対応する。つまり、日本語は「～切る」と「～通す」を用いて異なるニュアンスを表すにもかかわらず、中国語はその違いを区別せず、同様の結果補語<完>(wan)で表現する。

(※例文の a が原文であり、例文中の下線とゴシック表示は引用者による)

(1)a. ものの分量があまりに多過ぎるので、一息にそこで読み通す訳には行かなかった。

b. 郵件の分量太重，不能在那里一口气读完。

『ころ』(《心》)

(2)a. 打开《童年》的第一页，我立刻就被深深地吸引住了，几乎一口气读完了这本书。

b. 『幼年時代』は初めのページから夢中になって、ほとんど一息で読み切った。

《家》(『家』)

そこで、本研究は、中国語母語話者の日本語学習者(以下は「学習者」とする)は、このような複合動詞をどう理解し習得するかを明らかにすることを研究目的とし、具体的には次の2点を明らかにする。第1に、『中日対訳コーパス』(第一版)を用いて、「～切る」「～抜く」「～通す」はそれぞれ中国語とどのように対応するかを考察する。第2に、「～切る」「～抜く」「～通す」に対応する中国語を通して、学習者にとって、これらの複合動詞の習得にはどのような問題が起こりうるかを検討する。

「～切る」「～抜く」「～通す」は具体的な動作を表す語の意味から文法化が起き、「完了」というアスペクトの意味を表すようになった。しかし、これらの複合動詞は、基本義に対応する中国語は日本語と同様の文法化が見られておらず、また、文法化した意味に対応する中国語も、これらの複合動詞の意味特徴を表していない。したがって、「～切る」「～抜く」「～通す」の文法化プロセスを理解しない限り、これらの複合動詞のイメージを掴めないため、非用も誤用も起こりやすく、学習者にとって習得が困難であると考えられる。

これらの複合動詞のイメージを掴んでいなければ、意味の焦点がどこに当たっているかも理解できないため、使い分けもできない。それが誤用の主な原因だと考えられる。また、寺村(1984)が示したように、日本語のアスペクトを1次、2次、3次に分けた場合、複合動詞によるものは3次アスペクトに分けられる。学習者にとっては「完了」の意味だけを表すのであれば、1次アスペクトの形式のみで十分であり、3次アスペクトの複合動詞は独自の細かな意味特徴を付け加えるための存在であると認識される。このような認識が非用を引き起こす主な原因だと考えられる。